



TAKE OFF press

TAKEO Future Frontier

【校是】 質実剛健 報恩感謝

佐賀県立武雄高等学校

校長通信 NO.2 R6.04.15

文責 校長 下村 昌弘

E-Mail [shimomura-masahiro@education.saga.jp](mailto:shimomura-masahiro@education.saga.jp)



学校 HP

## 今なぜ“TAKE OFF”なのか？ —御船山は近代日本の幕開けと高校3年間の象徴—

御船山を遠くから眺めてみると帆をかけた唐船に見えます。三つの峰をもち、南からともの艦岳、帆岳、舳岳と呼ばれています。北麓には塚崎城跡があり、東麓には武雄神社が鎮座するまさにパワースポット。マイナスイオンもきっとたくさんはず！



先日、入学式・対面式を終え、3年から1年までの全てのめんつ面子がそろいました。私は「青春の濃密な一時期に同じ空間を共有する意味は大きい。縦の関係を横に広げてほしい」とエールを送りましたが、きっと皆さんは生涯の友人や先輩・後輩を得ることになります。ここで得られる紐帯ちゆうたい（つながり）を大切にしてください。

さて、その御船山を東側（北方方面）から見ながら考えました。それぞれの峰が3つの学年になぞらえられるのではないかと。北側から1年、2年、3年とすると、登り始め（1年）はなかなか急こう配。大変なこともあるけどとにかく高見を目指す。真ん中（2年）はつかんだペースを維持しつつ青春を謳歌する。そして我慢の岩場（3年）を上り詰めれば一気に眺望が晴れる。そんな感じ。3つの峰の遠景も優れものです。



それから、武雄市文化会館北東の河畔公園の鍋島義茂像から見た御船山も素晴らしい！ 写真（左）では遠近感が伝わらないのが残念ですが、まるで茂義が翼を背負っているようなのです。地球儀を抱え遠くを見る茂義はまさに時代のFrontier。近代の幕開けの礎を造った領主です。

武雄高校で学ぶ者は知らず知らずのうちにこうした歴史的背景を継承していくのでしょ。皆さんが未来の開拓者として羽ばたいていくことを切に願っています。TAKE OFF! (TAKEO Future Frontier!) 武高生よ、未来の開拓者たれ！

## あなたは短距離タイプ？ 長距離タイプ？ —同調圧力に屈せず強みを磨き上げよ—

新学期が始まりました。今は張りつめている気分ももうしばらくすると「これが続くのかなあ」と疲れを感じたり、思い悩んだりすることがあるかもしれません。

宿題をやるのも面倒。机の整理整頓も苦手。親からは「だらしない」と言われ、先生からは「協調性をもて」とたしなめられる。一言でいうと“人並み”のことができない、、、。こんな人もいるかも。



もちろん、人並みの均一さを目指すことはとても大切なことです。でも、あなたは根詰めて息長く作業するのは不得手だけど思いつきの速さや鋭さがある“短距離走者”タイプなのかもしれない。反対にダッシュは苦手でも安定的な速度を保てる“長距離走者”型なのかもしれません。

だから、不要な同調圧力に屈してみんなが同じ速度で同じ距離を走ることに縛られすぎる必要もないと思います。社会の多様性とは本来そういうことのはずです。

現状に息苦しくなったら、自分の強みをよく見て無理なく生かせる道を考えてもいい。

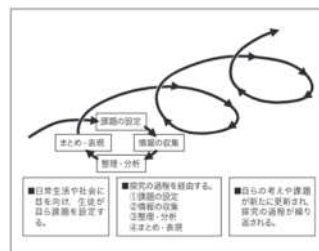
自分の人生を生きるのが自分の使命です。

それから、同調圧力と言えば、春になって自転車通学者が戻ってきました。その中にヘルメットの着用者がちらほら見えるのはとても素敵なことです。それが変な同調圧力を感じてせつかくの着用をためらうようにはなってほしくないなと思っています。

### 探究活動が始まります —タテ・ヨコ思考で考える癖を—

探究を大切にしたい。これが私の願いです。探究とは自分の興味・関心のある分野を深掘りすること。教科でも部活動でも生徒会活動でも次世代リーダー養成塾など自発的な課外活動でもなんでもいい、自分らしいと感じる部分にこだわってください。

探究のステップは4つあります。その2番目と3番目が「情報の収集」と「整理・分析」。その際に“タテ・ヨコ思考”を習慣にしてください。



“タテ”とは時間軸です。つまりあるテーマを深掘りしていく時に「かつてはどうだったのか」「将来はどうなるのだろうか」と考え、言葉でまとめること。一方、“ヨコ”とは空間軸です。他の地域、他の国ではどうなのかを考えることです。それらは一言で言うと「思考の射程を広げる」ことであり、想像力をたくましくすることです。

食品ロスでも、貧困問題でもそうしたアプローチをする中で“気づき”が生まれてくるでしょう。分析はもちろん、情報収集の際にもこうした方法で本を探してみてください。

### かわいい子には旅をさせよ —短期海外語学研修をとおして—

3月末から4月上旬、12日間の行程でオーストラリア・ブリスベン郊外を舞台に県内中高一貫教育校3校(武雄高・青陵中、致遠館中高、鳥栖高・香楠中)合同で海外研修を行いました。全体で38名の参加でした。

参加した生徒さん2人から話を聞きましたが、その目の輝きを見るにつけ、強烈な体験だったことがよく伝わってきました。



交流した学校はイスラム系のスクール。またホストファミリーもアジア系のアメリカ人。傍<sup>はた</sup>から見るとイレギュラーな感じがしなくてもありませんでしたが、その生徒さんは「中東系の英語はむしろ新鮮!」「イスラムに対する未理解や偏見があった!」「移民大国を実感!」「英語、中国語、日本語が飛び交う毎日は刺激的!」と背筋を伸ばして語ってくれました。

2人は「英語の勉強はハードだけどアウトプットする(話す)ことで語学力は確かなものになる」「外国に行くことで日本の良さに思いをはせた」と語ってくれました。

遠くない将来、本校からも直接海外の大学に進学する人がでてくれればなあと思います

(閑人閑話)週末は本の整理を手伝っている。ひと口に本と言っても数万冊に及ぶ量。お世話になった大学の先生のご蔵書▼もともとは大学の研究室にあったものをご退官と同時に引き上げ、その管理場所を変えながら、今度は市民センター山内支所内に移転することになった▼先生曰く「メモ紙1枚たりとも捨ててはいけません。先生の研究に対する厳しい姿勢を垣間見た。身の引き締まる思いがした▼私の入学は文学部。基本的には本が好きだ。学生時代には古本屋にもよく通った。昔の本には今でも通用するものがたくさんあり、整理する手伝いの合間について読み入ってしまう▼先日新聞で今の高校生は動画視聴に多くの時間を費やしていることが書かれていた。探究も始める。ネットの情報は点に過ぎない。それを線や面にするためには書物による全体的な概念把握が有効だ▼「若いときにいい本を読め。でないとうすぐ歳をとってしまう」。高校時代の恩師の言葉。(昌)

- 【当面の主な予定(4月後半)】
- 15日(月)部活動紹介(1年)
  - 16日(火)防災・避難訓練  
面談週間(24日まで)
  - 17日(水)心臓検診(1年)
  - 20日(土)土曜セミナー(2・3年)
  - 22日(月)3年ハイレベル、2年月セミ
  - 23日(火)歯科検診(3年)
  - 25日(木)歯科検診(2年)
  - 30日(火)生徒会長選挙  
3年ハイレベル・2年月セミ